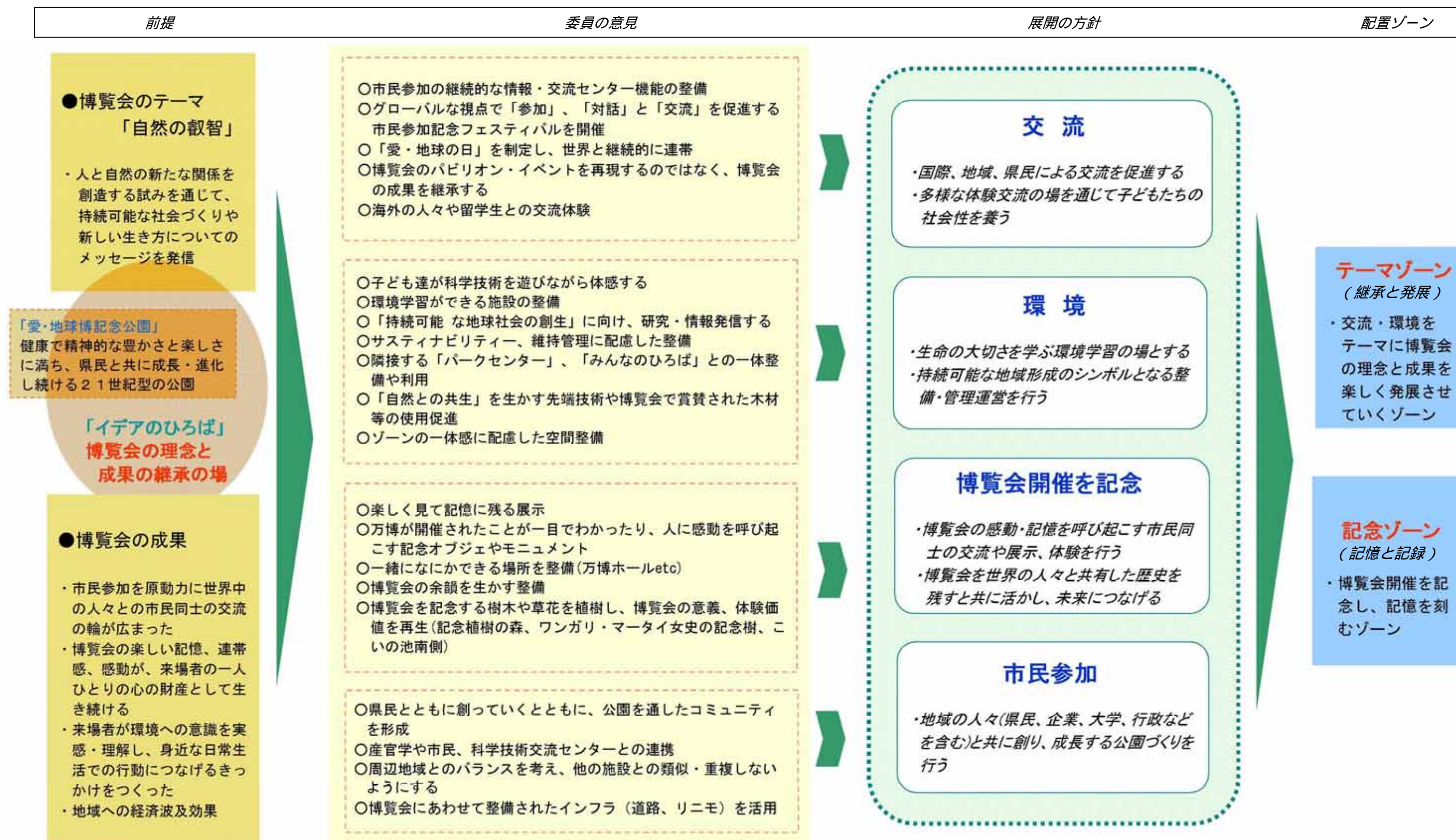


2. 基本構想

2.1 基本方針

「アイデアのひろば」における展開の方針と具体的内容を以下のように設定した。また、それを踏まえ、テーマゾーンと記念ゾーンを配置した。



2.2 ゾーン配置

「アイデアのひろば」は、「テーマゾーン」「記念ゾーン」の2つの空間により構成する。公園の他のエリアや隣接する空間との整合、公園周辺地域における計画との関係を考慮しゾーン展開を図る。

テーマゾーン

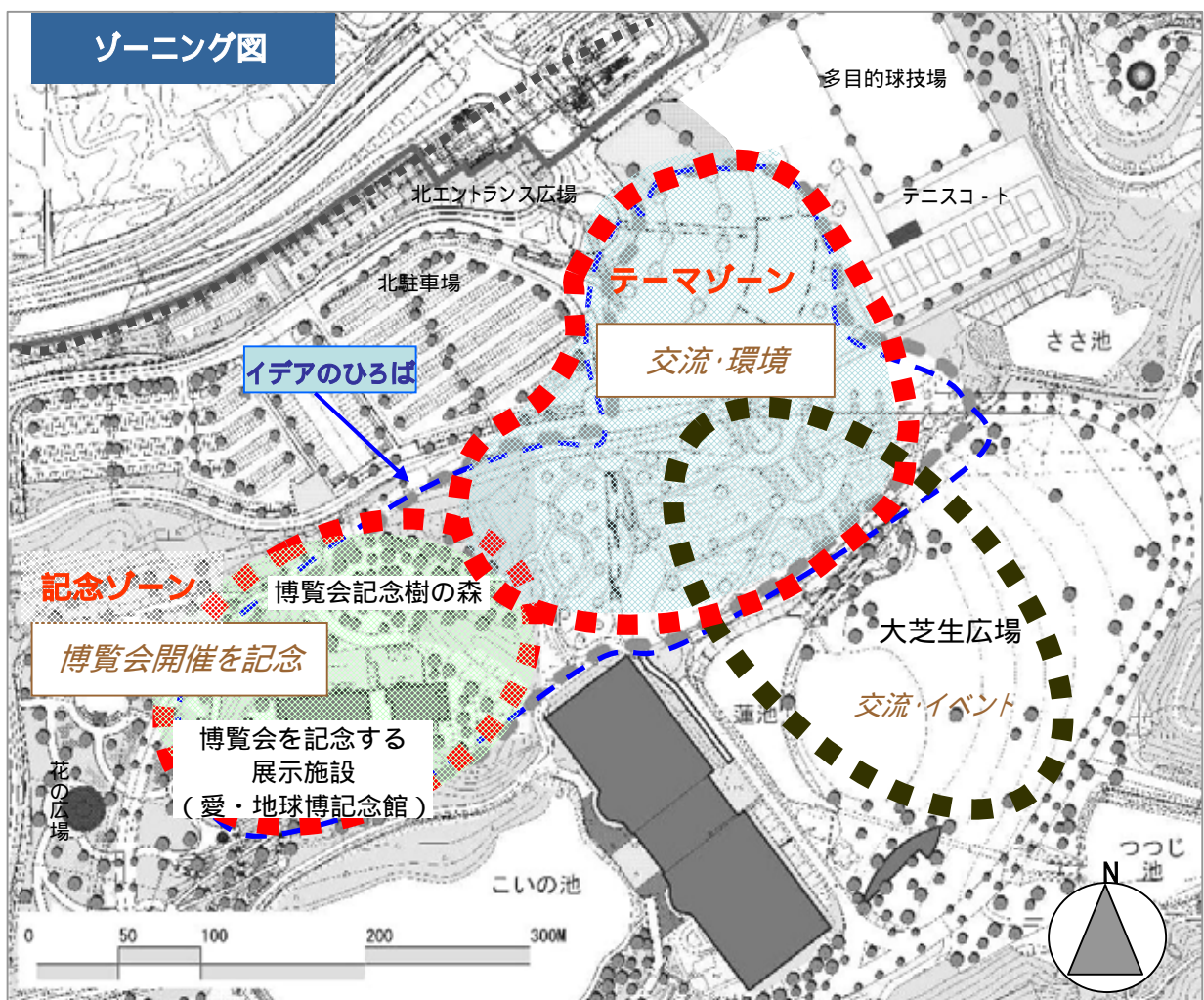
～ 博覧会の理念と成果を楽しく発展させていくゾーン～

- ・「交流」と「環境」をメインテーマとして構成
- ・公園の入口となる北エントランス正面部に配置
- ・大芝生広場における交流イベントなどと一体となった利用を展開

記念ゾーン

～ 博覧会開催を記念し、記憶を刻むゾーン～

- ・博覧会の歴史的な位置づけとその記録の展示(愛・地球博記念館)
- ・博覧会記念樹の森の配置
- ・迎賓館跡地周辺に配置

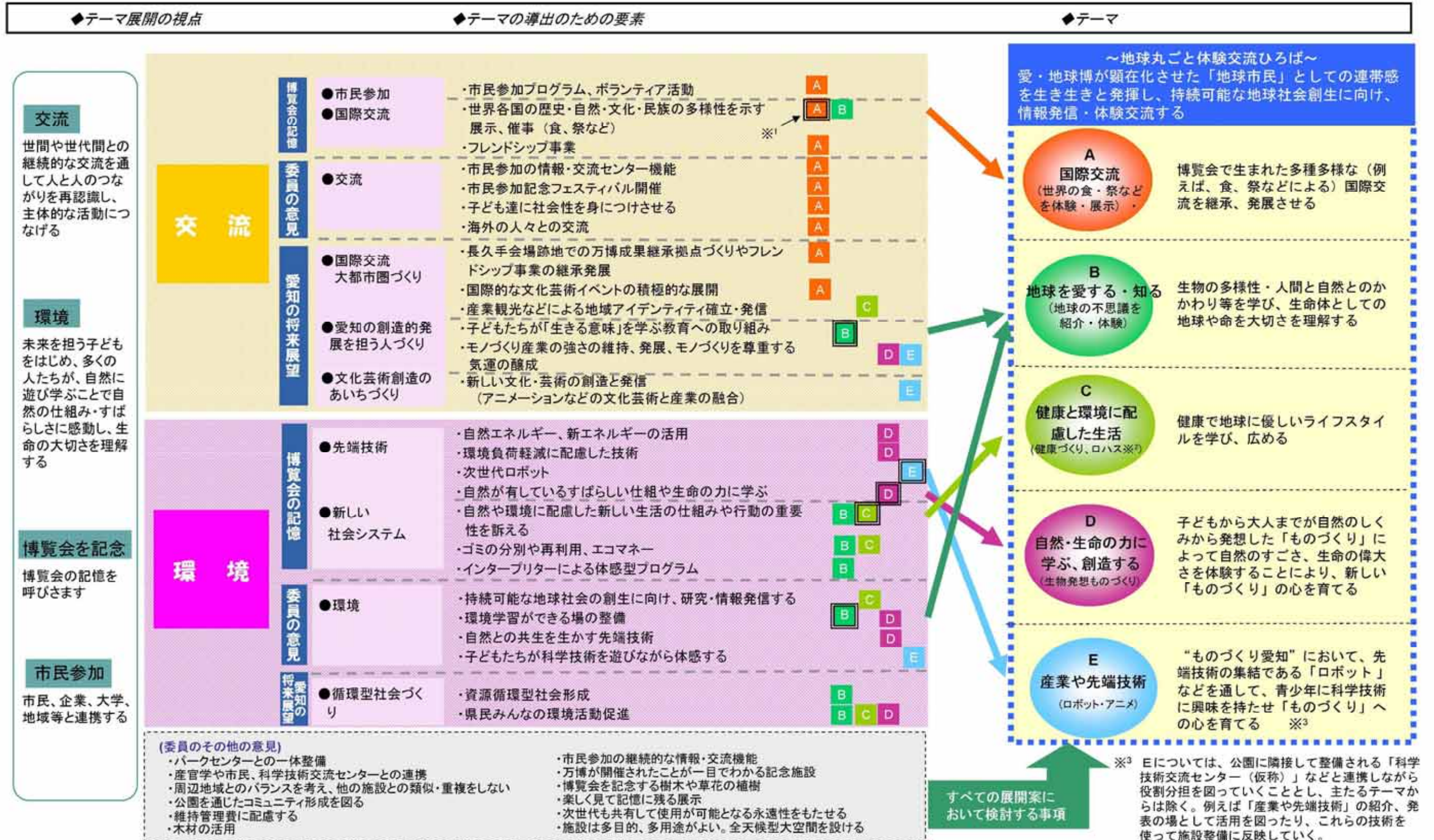


施設名称はいずれも仮称である。

2.3 各ゾーンの展開

(1) ゾーン別のテーマ テーマゾーン

展開の方針を踏まえ、テーマ展開にあたっての視点を設定し、「博覧会の記憶」「委員の意見」「愛知の将来展望」から、テーマの導出のための要素を洗い出し、その中でもっともメインとなる要素から、右記に示す A~E のテーマを設定する。



¹ 各テーマ導出にあたってメインとなる要素

² ロハス(LOHAS):【Lifestyles of Health and Sustainability】 健康で持続可能なライフスタイル

記念ゾーン

記念ゾーンのテーマは以下のとおりである。

～語り継いでいく愛・地球博のメッセージ～

愛知県で開催された愛・地球博の来場者の感動を再び呼び起こし、またメッセージを後世に語り継ぎ、未来につなげる

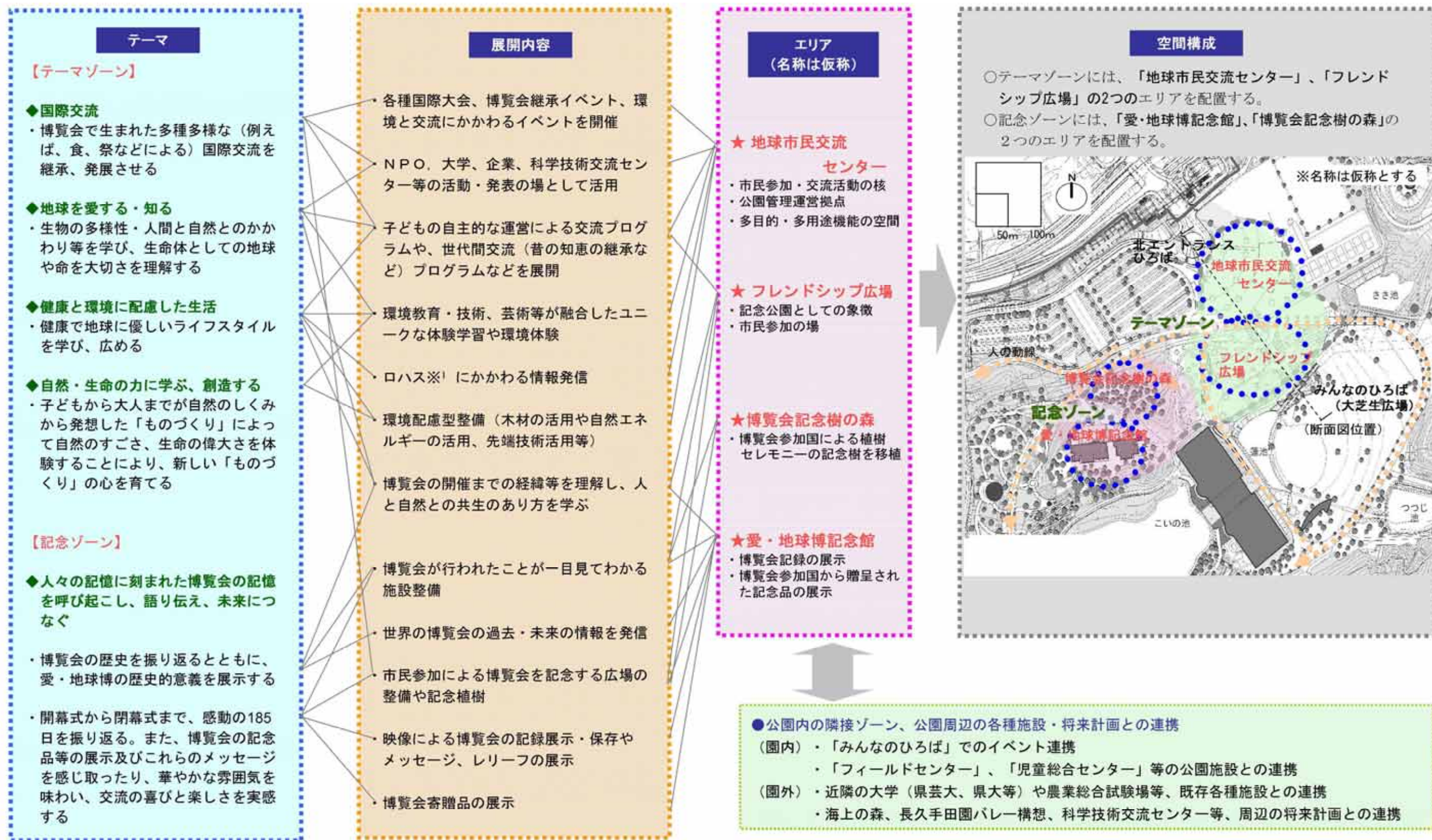
記憶を刻む
感動を呼び起こす
語り伝え、未来につなぐ

- ・博覧会の歴史を振り返るとともに、愛・地球博の歴史的意義を展示する
- ・開幕式から閉幕式まで、感動の185日を振り返る。
- ・博覧会の記念品等の展示及びこれらのメッセージを感じ取ったり、華やかな雰囲気を楽しむ、交流の喜びと楽しさを実感する

(2) 博覧会の成果である「市民参加」の育成

- ・市民と行政とのパートナーシップにより構成された市民協働型の運営管理を先駆的に行う
- ・博覧会を契機に、活発化した市民、NGO、NPOなどに活動の場を提供する。

(3) 展開内容



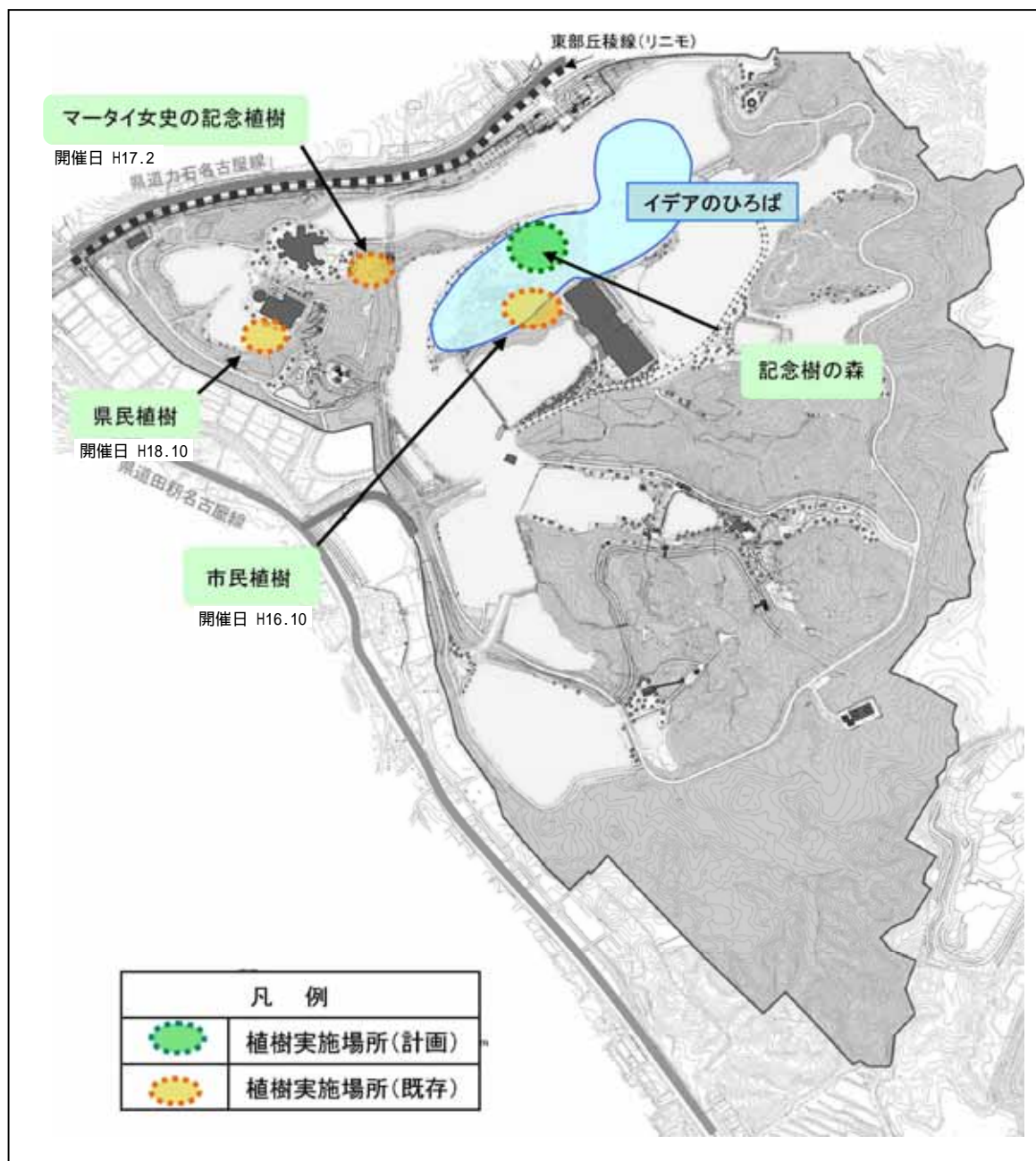
1 ロハス：健康で持続可能なライフスタイル

(LOHAS : Lifestyles of Health and Sustainability)

(4) 記念植樹(新規・既存)実施場所

公園内において、博覧会事業にかかわる記念植樹等の場所は以下のとおりである。この他、博覧会参加国からの記念植樹の予定がある。

記念植樹の位置図



(5) 公園周辺の各種施設・将来計画との連携

この地域は、あいち学術研究開発ゾーンの重要な地域であり、その中には大学や文化施設が集積している。周辺地の主な計画として以下のものがある。

「知の拠点」計画

- ・世界に冠たるモノづくりの拠点性を一層高めていくため、ナノテク、IT、バイオの基盤技術に係る「研究開発・事業化」を推進し、「次世代モノづくり技術の創造・発信」を総合的に行う「知」の拠点づくりをめざす。

「海上の森」の保全と活用

- ・2005年日本国際博覧会協会の原点である『海上の森』（約510ha）を博覧会の理念や成果を継承した「愛知万博記念の森」として、将来にわたり保全するとともに、人と自然の関わりの在り方の探求を目指し、県民参加のもとに森林や里山に関する学習と交流の拠点づくりを進めている。

長久手田園バレー構想

- ・長久手町は、「都会的ながらもゆとりのある長久手」をつくるため、快適で便利な都市生活を送ることができる一方で、田園環境も楽しめる「農のある暮らし、農のあるまち」を目指した長久手田園バレー構想を推進している。

周辺施設の位置図



2.4 テーマゾーンにおける機能展開

アイデアのひろばのうち、テーマゾーンは『地球丸ごと体験交流ひろば』として、「環境」と「交流」の2大方針に沿った利活用を図るエリアであり、市民参加・交流活動のインキュベータとなる機能を持たせるよう様々な市民活動の場を設ける。

(1) 地球市民交流センター

- ・ 博覧会で培われた「地球市民」としての連帯感を生き生きと発揮できる市民参加・交流活動拠点
- ・ 地球市民のための参加・交流センター機能と公園管理運営機能の一体的構築
- ・ 各種イベントを開催することができる雨天時でも利用可能な多目的多用途機能空間

【機能と展開内容】

インフォメーション機能

- ・ 園内の花や緑の情報や公園の歴史等の情報発信
- ・ 公園全体の活用情報や参加体験学習情報の発信
- ・ プログラム申し込み、各種施設やイベント参加申し込み
- ・ 市民参加、市民活動情報発信、参加案内

市民参加・交流活動機能

- ・ 各種ワークショップや多彩なスクール形式の集会に対応できる使い勝手のよい多目的室やワークショップルーム
- ・ NPO等の市民活動の発表の場として提供

展示・情報発信機能

- ・ 公園管理者による常設の骨格的な展示・情報発信

例) 地球環境と健康のためのライフスタイル紹介・展示・体験、環境技術の紹介、資源循環展示、生物模倣技術の紹介、情報発信スタジオ、生活の知恵の伝承等

- ・ NPO、企業、大学、関連機関などに活動や発表の場として提供

大規模イベント開催機能

- ・ 博覧会の記憶を蘇らせる記念イベント、環境や交流に関わるイベントなどの各種イベント・プログラムなどに対応可能な空間（開催するイベント例については、次項参照）

運動機能（屋内型）

- ・ 屋内スポーツや健康づくりスペース
- ・ ワorkshopや屋内型小イベントの場

休憩・飲食・販売機能

- ・ 休憩スペース、料理の提供や、記念商品の販売スペース

防災機能

- ・ 発災時には中核広域防災活動拠点の支援センターとして活用できる機能を持たせる
- ・ 発災時は、公園管理運営オフィス、多目的室、屋内運動施設等を転用し活用

公園管理運営機能

- ・ 公園管理・機能管理事務室、指定管理者事務室、NPO等、参加団体対応の会議室等



・ 各種ワークショップの開催

その他

- ・環境配慮型による整備推進

イメージ



・屋上緑化



・自然光や風を取り入れる



・木材の使用を促進

(2) フレンドシップ広場

- ・博覧会の象徴的な交流事業であった一市町村一國フレンドシップ事業をデザインテーマ
- ・デザイナー、専門家等によるデザインに基づき、市民参加型による広場づくり、森づくり
- ・整備後は市民活動の場として活用

【機能と展開内容】

記念公園としての象徴機能

- ・「市民参加」により成功を収めた博覧会を象徴するに相応しい広場や森を、計画段階から整備まで、専門家の指導のもと市民参加により整備
- ・斜面部に位置しており、地球市民交流センターとの連続性や一体的なデザインに配慮
- ・恒久的な素材で見栄えのよいもの

例) 博覧会のメッセージを刻み込んだ修景、
フレンドシップ事業での国際交流に関わる
モニュメントデザイン、
県産材の活用 など



イメージ(博覧会海上地区事例)

市民等多様な主体の参加の場としての機能

- ・大学、企業、フレンドシップ事業に係わった市町村や大勢の市民及び関係機関等の幅広い参加で実施
- ・長期に渡って活動が継承できるような仕組み
- ・整備後は、各種屋外型ワークショップ空間として活用

2.5 博覧会の理念を継承したイベント開催

公園の核であるアイデアのひろばの機能を効果的に発揮させ、エリアの魅力が一層高められるような充実したソフト展開の柱として、博覧会の記憶を蘇らせる大規模な記念イベントや、博覧会の理念の継承というテーマに沿った目的・内容で、大勢の人々が参加する大小のイベントや企画展示を実施する。

また、博覧会の開催を記念するイベントの1つとして、テーマゾーンに市民参加方式で博覧会の理念を継承するフレンドシップ広場を整備する。記念ゾーンでは、愛・地球博記念館において企画展示を定期的実施する。

(1) イベント開催

- ・博覧会で行われた事業やイベント、博覧会を記念する日を制定し博覧会の記憶を蘇らせるような大規模なイベント等を集中的に展開する。
- ・全国で展開される基本理念継承発展事業との連携等、博覧会の理念を継承した各種イベントの積極的な誘致を図っていく。
- ・イベントは、ワークショップ、展示を組み合わせで開催する。
- ・各イベントは、その内容・規模にふさわしい場所（地球市民交流センター、フレンドシップ広場、大芝生広場等）で展開する。
- ・愛・地球博記念館では、周年記念等、定期的に企画展示を行う。企画展示は、収蔵品のほか、開催当時の展示物や、博覧会の理念や成果を象徴するものを含めたものとする。
- ・これらのイベントの多くは、市民参加団体等に自主企画として実施して頂くが、必要に応じて県や指定管理者と市民参加団体との協働も想定する。
- ・参加・協力する組織としては、愛・地球博への参加団体、科学技術交流センター（仮称）等関連機関、近隣大学、その他テーマに関連する団体や組織等などが挙げられる。

主なイベント展開例

1. 大規模イベント例	2. 企画展示例（愛・地球博記念館等で開催）
●環境に係るイベント ・「国連持続可能な開発のための教育の10年」に基づく行事等の連続誘致、支援等	●グローバルコモンウィーク ・グローバルコモンを単位として企画展示
●交流に係るイベント ・愛・地球博での交流イベントの継続や交流事業の記念イベント等	●愛・地球博のテーマ展開 ・博覧会のテーマ、サブテーマを改めて認識し、それらを展開する企画展示
●テーマ展開に係るイベント ・ロハス、環境技術等	●映像祭 ・博覧会に関する映像を展示し、博覧会開催当時の感動を再び喚起する企画展示

2) フレンドシップ広場の整備

- ・フレンドシップ広場の整備もイベントとして行い、博覧会の理念を継承するシンボリックなイベントとして開催する。また、長期に渡ってこの活動が継承できるような仕組みを構築する。

3. 基本計画

3.1 空間整備方針

(1) 考え方

テーマゾーンの空間整備の考え方は以下のとおりとする。

公園全体の緑地ネットワーク形成に配慮した森林の再生

- ・本公園は、丘陵地形を生かして整備されており、公園全体が既存樹林地の緑で包まれている。そうした中、テーマゾーン敷地は博覧会施設撤去後、裸地となっており、園内の緑地の連続性が分断された状況にある。博覧会後の公園整備における緑の保全と育成は、公園づくりの基盤となる考え方であり、テーマゾーン整備においても、展開機能との整合を図りながら公園全体の緑地ネットワーク形成に配慮して緑化を積極的に行う。

市民参加を取り込んだ整備

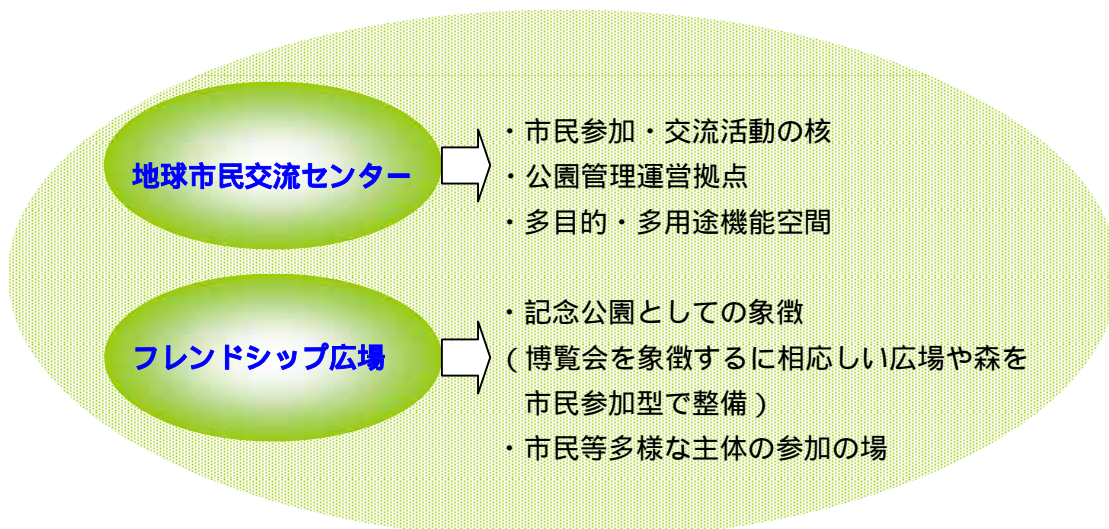
- ・テーマゾーンは、博覧会の理念と成果を発展させていく場である。このため、ここでの空間整備は博覧会の成果である「市民参加」の継承を柱の1つとして捉え、空間整備や施設運営に反映させていく。

博覧会の理念と成果を継承したシンボル空間

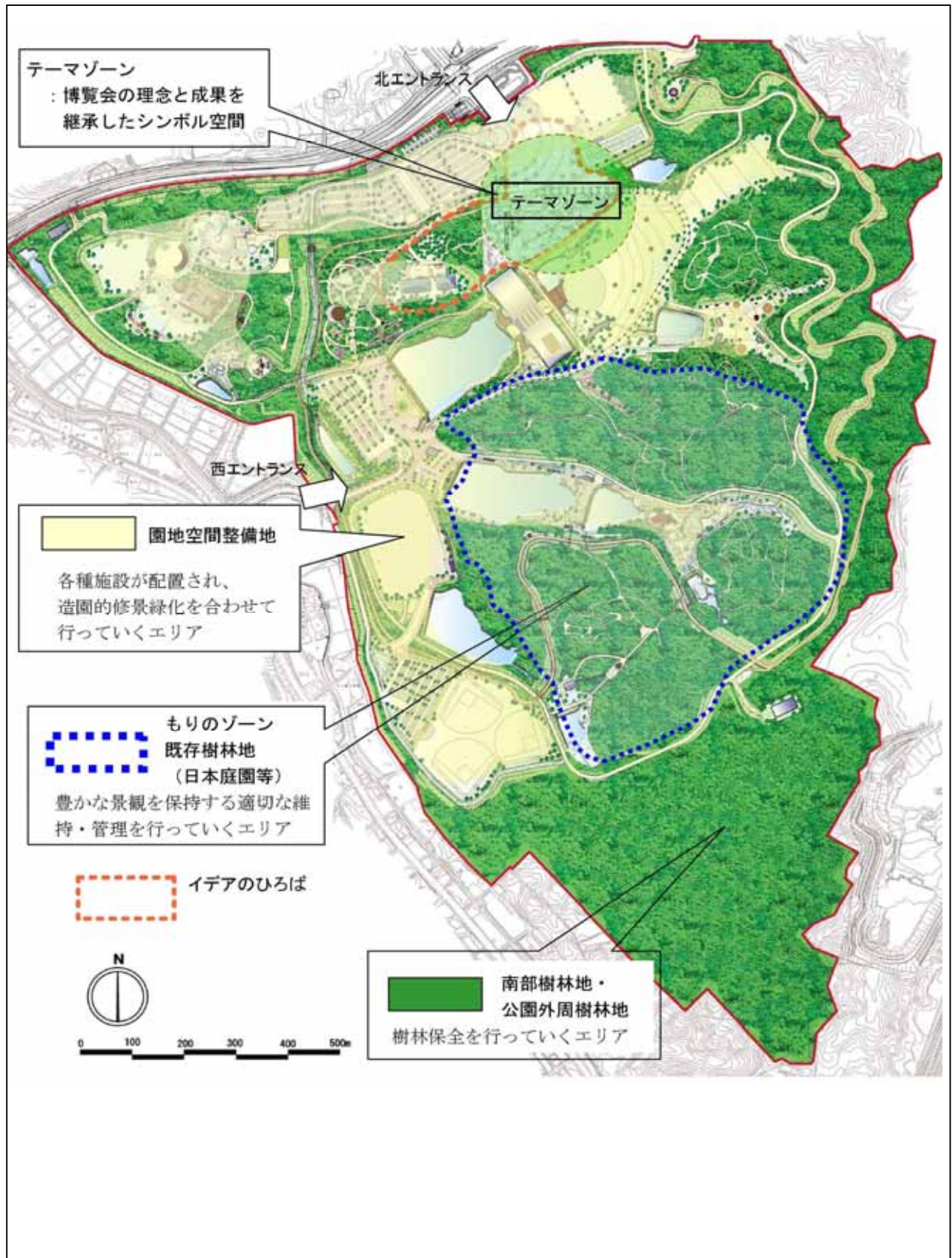
- ・拠点施設は、周辺の自然環境と調和し本公園の緩やかな丘陵地形を活かしたダイナミックなデザインとする。
- ・自然のしくみを活用した環境技術を集積して、環境配慮型のエネルギーシステムを取り入れる。
- ・「環境と交流」のテーマにふさわしい森に囲まれた、交流の拠点とする。

(2) エリア配置

基本構想を踏まえ、テーマゾーンに配置するエリアと基本機能は以下のとおりである。



公園の基盤的な空間構成とテーマゾーンの位置



3.2 動線計画

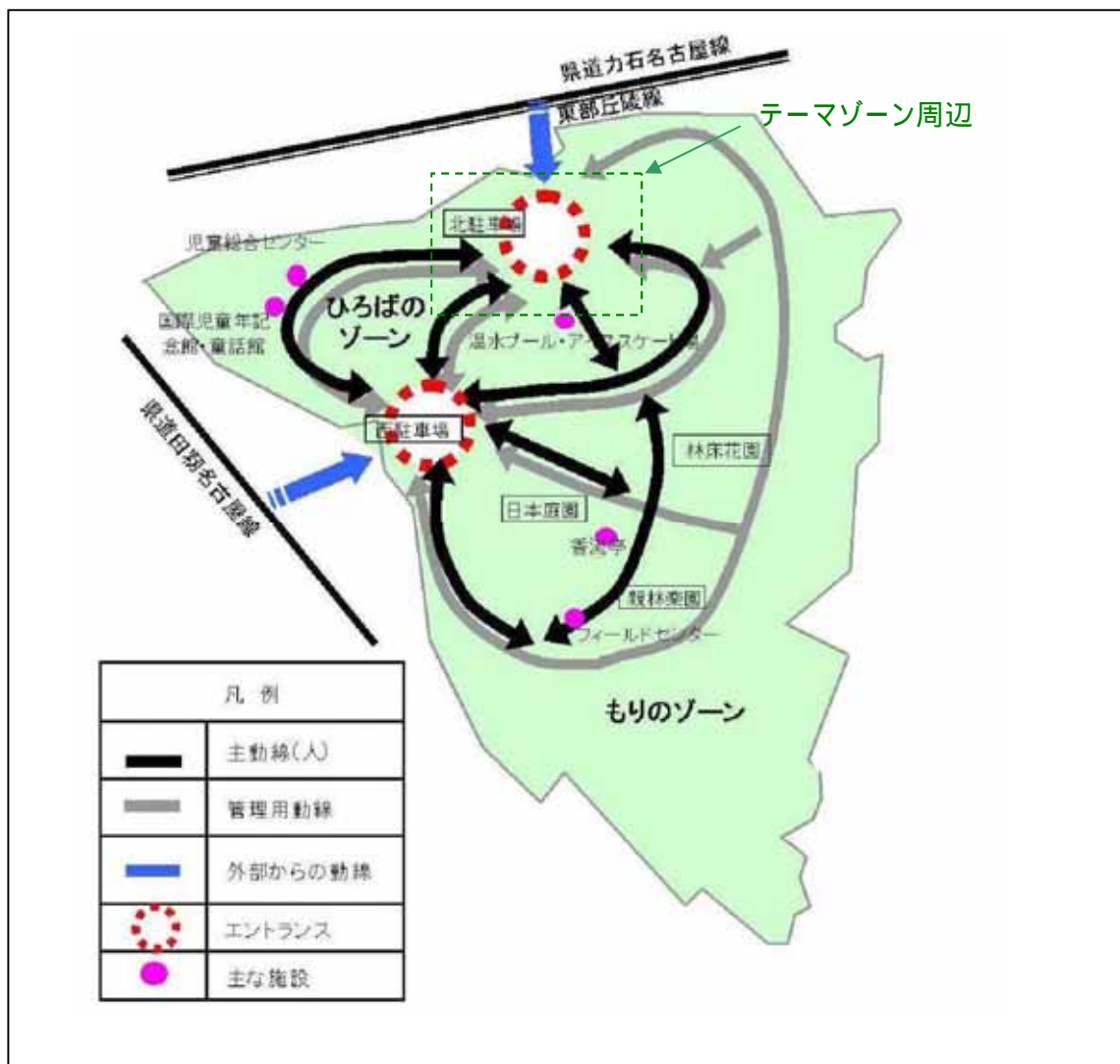
公園の動線計画は、公園施設間の相互連絡をスムーズに行うと共に、施設間内の連絡路を効果的に配置するものであり、エントランスや主要施設の位置、博覧会の園路形態の活用を考慮し設定する。動線構成は、公園全体の骨格的な動線である主動線と、サブ的な動線である副動線に区分し計画する。

(1) 公園全体

人の動線

- ・人の動線は、北エントランスと西エントランスの2ヶ所が結節点となり、それぞれの場所から放射状に主要施設への連絡する動線を主動線として設定する。
- ・テーマゾーンは、北エントランス部の結節点に位置し、北エントランスや他のゾーンからの動線が集まる位置にある。

公園全体の動線



(2) テーマゾーン周辺

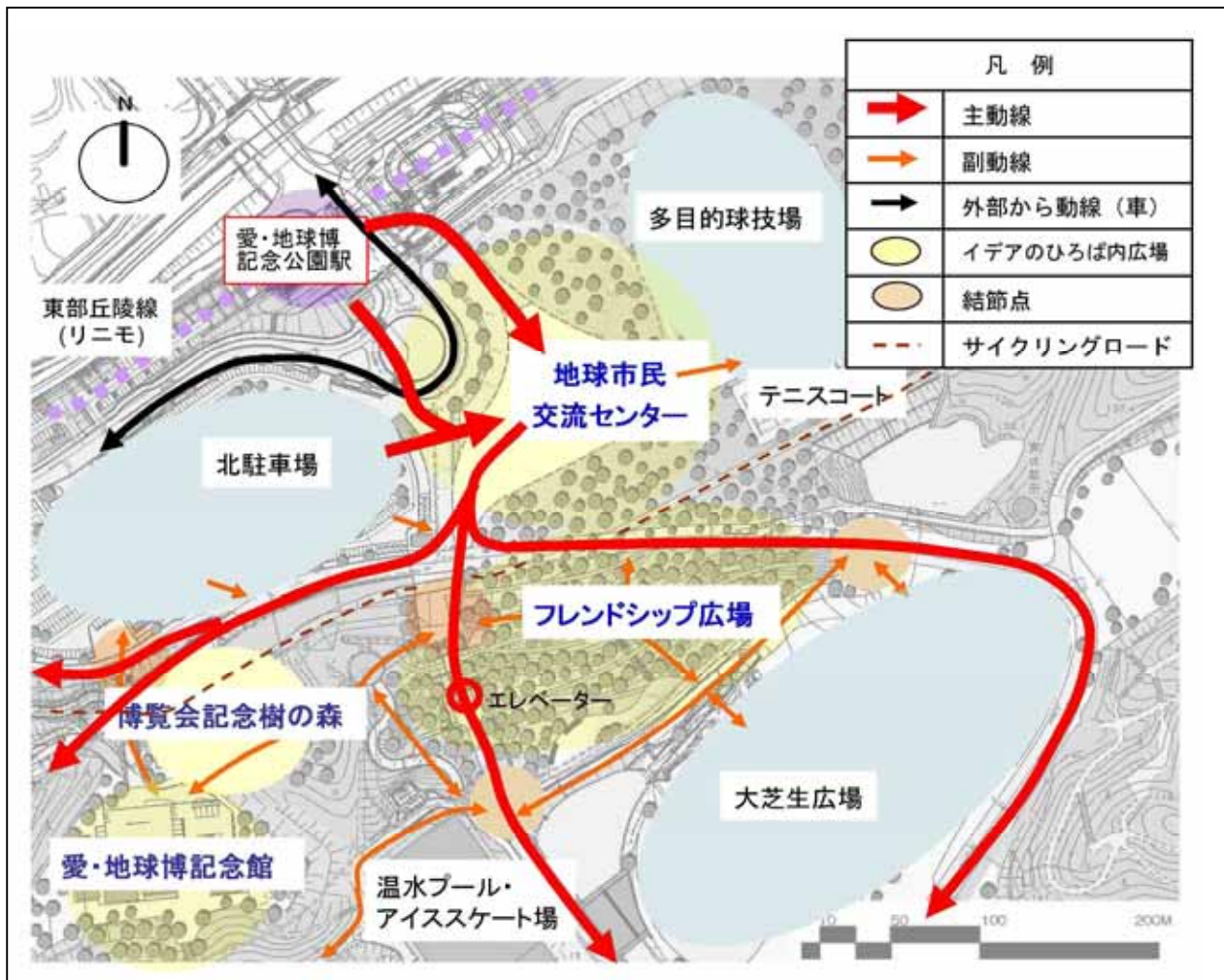
主動線

- ・主動線は、誰もが歩きやすいユニバーサル園路として整備する。
- ・タイプとしては以下の2動線がある。
 - リニモ「愛・地球博記念公園駅」と「北駐車場」から、市民交流拠点である「地球市民交流センター」に誘導する動線
 - 「地球市民交流センター」と園内の他のゾーンを結ぶ動線
- ・「温水プール・アイススケート場」と「地球市民交流センター」を結ぶ動線上に生じる急な高低差の解消には、エレベーターを設置する。

副動線

- ・アイデアのひろば内の「博覧会記念樹の森」と「フレンドシップ広場」間には、樹林地内を經由して連絡する副動線を配置し、利用の連続性に配慮する。

テーマゾーン周辺の動線



3.3 植栽計画

空間構成の考え方を踏まえ、テーマゾーンの植栽計画のテーマを以下のように設定し、エリア毎における植栽計画の考え方を整理する。

博覧会の理念と成果を継承するシンボルとなる森の整備

- ・ 緑地ネットワーク形成
- ・ 市民参加型整備
- ・ 建物や周辺樹林と一体となった森づくり
- ・ 地域種による緑化
- ・ 環境負荷軽減に配慮した植栽整備

- ・ 公園の現況植生であるモンゴリナラ・コナラ林の再生により、当エリアにおいて公園東側と西側で分断されている緑地をつなぎ、公園内緑地ネットワークの形成を図る。公園の現況植生については、P.33 に示す。
- ・ 植栽施工にあたっては、土壌条件（水分、通気性、透水性、PH等）が樹木の生育にとって最も重要な要素の1つであることを考慮し、植栽対象地の条件に即した植栽地盤づくりを行う。

【エリア別方針】

フレンドシップ広場

- ・ 周辺の斜面樹林との連続性を確保した落葉高木を主とした森づくり。樹冠が重なり合う程度の明るい森とし、夏季には、南からの風が「フレンドシップ広場」を通り抜け、冷気を中央の広場に運ぶ。
- ・ 博覧会跡地の緑地回復空間、博覧会の理念を継承していく市民交流空間として、市民参加型による植栽や維持管理を実施。
- ・ 地域種であるモンゴリナラ等を実生から育成。

クヌギ、コナラ、アベマキ、ヤマボウシ、モンゴリナラ、ソヨゴ、タブノキ 等

地球市民交流センター

- ・ 建物屋上部は周辺環境と調和、公園のシンボル性、環境負荷軽減面を考慮した緑化。効率的な屋上緑化システムを建築構造と合わせて検討。
- ・ 博覧会で賞賛をあげた壁面緑化を建物形態と整合を図り検討。
- ・ 都市における新しい緑化方式の提案の場。

芝生、ヘデラ等の地被類やセダム類による建物屋根部・壁面部の緑化

地球市民交流センター周辺

- ・ 周辺樹林との一体性のある落葉高木を中心に下草を組み合わせた植栽。
- ・ 地域植生種を基本とした緑地回復の場。植栽間隔は、樹冠が重なり合う程度。

クヌギ、コナラ、ケヤキ、アベマキ、エゴノキ、アラカシ

コウライシバ、シャガ、ツワブキ、コグマザサ、フッキソウ 等

- ・ 地球市民交流センターの西側は防風機能に配慮。樹種は、地域で防風樹として使用される常緑樹を主体に選定。

シラカシ、アラカシ、ウバメガシ、イヌマキ、ツバキ 等

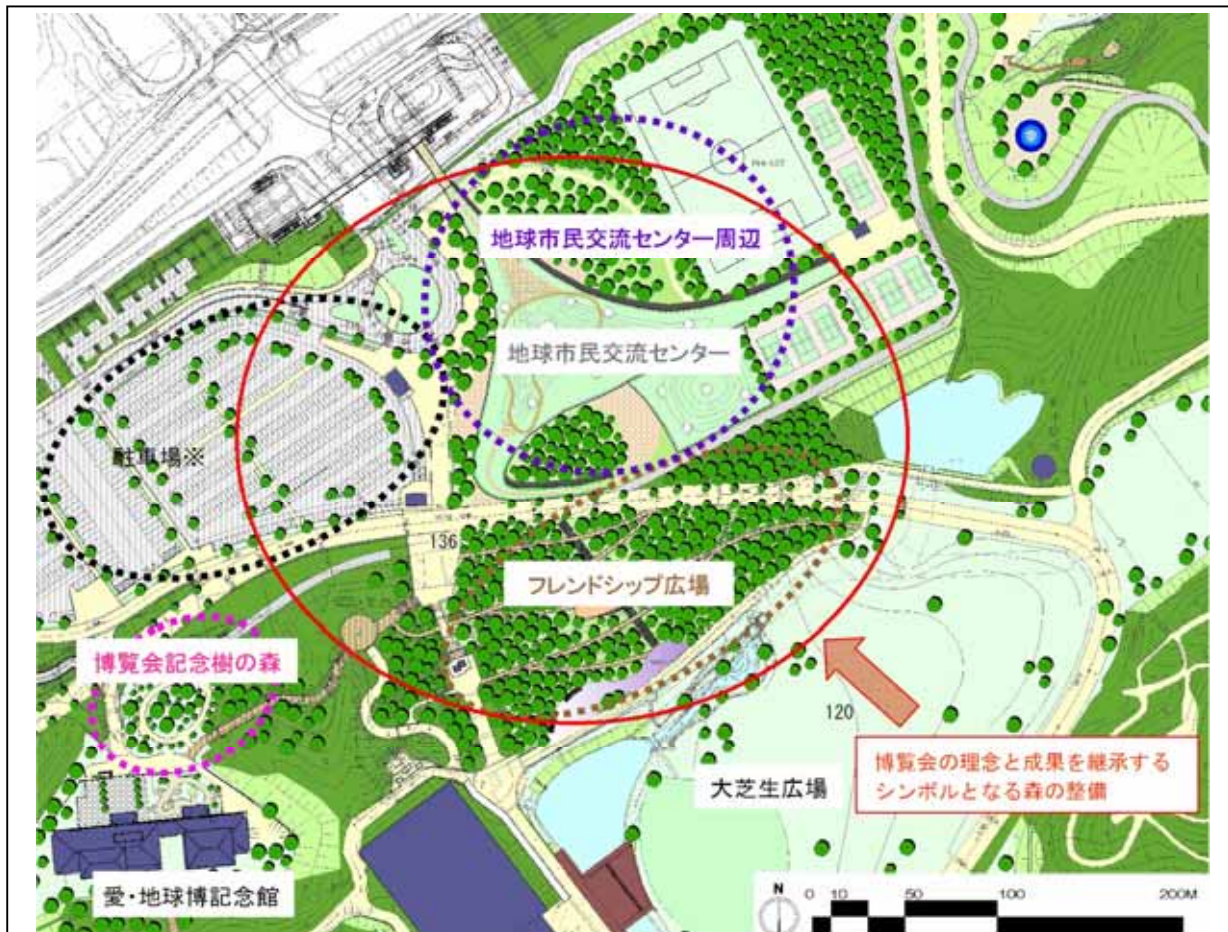
博覧会記念樹の森

- ・ 博覧会参加国による植樹セレモニーの記念樹を移植。
- ・ 愛・地球博記念館に隣接した緑地空間として建物と調和のとれた植栽。

記念樹：ハクモクレン、ソメイヨシノ、トウカエデ、ヤエザクラ

その他：クロマツ、タギョウショウ、ヒトツバタゴ、サルスベリ、リュウノヒゲ、クマザサ 等

エリア別の植栽計画



凡 例	
	植栽整備地
	芝生整備地
	既存樹林地 コナラ、モンゴリナラ、エゴノキ、ソヨゴ、アベマキ、等



モンゴリナラが多い既存樹林地との連続性に配慮した植栽整備

※エントランス・駐車場(整備済み)

- ・ 四季の花と樹形の美しい落葉樹を植栽
- ・ 駐車場の安全性、維持管理に配慮
- ・ イチョウ、ソメイヨシノ、ハクモクレン、アメリカフウ、ハナノキ、ユキヤナギ、ツツジ類、コクチナシ、ボックスウッド、カンツバキ

愛・地球博記念公園の現況植生

- ・愛・地球博記念公園が位置する地域は、植生的にはシイ・カシ等常緑広葉樹林を潜在自然植生とするヤブツバキクラス域に属するが、長年にわたって人為的影響を大きく受け自然植生はほとんど残存していない。
- ・公園南東部にはコナラやモンゴリナラ、アカマツの二次林が広がり、北西部には公園建造物や園路等が集中し、それに沿って造園樹木植栽がなされている。

愛・地球博記念公園の現況植生（博覧会開催前）

